



## 申8号『2025年度賃金引上げ・労働条件改善を通じて全組合員と家族の生活向上を実現するための申し入れ』回答の再考を求める緊急申し入れをおこなう！

ジェイアールバス関東労組労働組合は、2025年3月21日に申6号「2025年度賃金引上げ・労働条件改善を通じて全組合員と家族の生活向上を実現するための申し入れ」に対する回答を受けました。回答書は、①2025年4月1日現在、満55歳未満の社員に対して賃金改善を実施することとし、現基本給に対し4,000円を加えた額を新基本給とする、②満55歳以上の社員に対して現基本給に対し、4,000円を加える、③初任給等に関して資格給基礎額に4,000円を加える、④契約社員Aは従事する業務内容や勤続年数等に基づき、個別に定めた額を加えた額を新基本給とする、⑤契約B及び臨時雇用員には契約日額に対して150円、時間額に対して20円を加算する、という驚愕の会社回答でした。回答書に明記されている「第3四半期決算時点累計2億1,700万円の営業利益を計上するとともに、昨年度に引き続き対計画も上回る」ことができたこと、「安全・安定輸送を基軸にさらなる増収に向けて社員一丸となって取り組んでいく」こと、「『中期経営計画2023-2025』の最終年度として、この間の取り組み、実現した様々な施策のさらなる成熟化と進化、そして次世代への持続的成長へ向けた基盤づくり」を行っていくこと、「一人ひとりの働きがいと成長が、会社の発展へと重ね合わせていくことを認識」していることなど、効率化に協力した施策努力分という観点からしても要求に対する満額回答が必須であるなかで、賃上げ率が5%にも満たない回答は組合員・社員と家族の生活実態、現場感覚と相当乖離した愕然とする数字です。

私たちが2023年5月に全組合員と家族で職場から挑むために発出したバス関東労組「安全・安定輸送宣言」は単に会社の生産性向上と効率化施策に協力するというものではなく、全組合員と家族で労働組合の立場から今日の社会情勢・バス業界の現実・会社の経営状況・労働環境・労働条件をもう一度見つめなおし、同じバス業界で働く私鉄系バス会社とジェイアールバス関東の違いを様々な角度から考え、私鉄系バス会社の仲間たちのたたかいやこれまでの厳しい道のりを学び、社会情勢と企業業績に見合う賃金・労働条件の実現を目指すために、「安全・安定輸送と協体制で私たちの生活向上を実現する」という基本スタンスのもと実践してきたものです。その意味で会社が示した回答は「ベースアップの性質」である「物価上昇分・生活維持向上分・社会情勢（他企業との足並み）を一切踏まえない著しい低額回答と言えます。企業とは社会の一員であり、その上で社員を雇用していることから、物価上昇により社員の生活苦を生み出すことは、企業としての社会的な責務を全うしていないばかりでなく放棄していることに他なりません。

また2021年度申12号交渉過程で確認した「若い社員が夢や希望を持って長く勤めたいと思える会社となるビジョンを示していく」議事録確認、2024年度新賃金に関する申6号交渉過程で確認した「昨今の物価の上昇に伴う社員・組合員の生活水準上昇を主眼として、コロナ禍による赤字体質の改善のために様々な構造改革に尽力した社員・組合員とその家族の皆さんに対する還元、さらに将来にわたって人財の確保に資すること等を総合的に勘案して、労使の議論をふまえて決定した」「会社のさらなる持続的な成長に向け、より筋肉質な収支構造の構築による生産性の向上を進めていくとともに、さらなる人財の確保及び賃金改善や労働環境の整備等、社員・組合員の働きがいの向上と家族の幸福の実現を今後も勧めていく」確認メモがいまだに履行されておらず、不履行状態であると指摘せざるを得ません。

回答が示されて以降職場では、「私たちの可処分所得と生活苦を考えているのか」「先が見通せない」「悪い意味で期待を裏切らない回答」「カップラーメンすら買うのをためらっている生活をわかっているのか」「死ぬと言っているのと同じだ」「何をもって限界を突破して数字なのか、全く心に響かない」「若い人が不憫だ」「あまりの低さに驚いている」「ベアと定昇と合わせて7,000円～8,000円、これでは全く賃金としてはマイナスであり、贅沢しているわけではないのに生活が苦しい」「他会社と比べても落ちたとみんな言っている」「マンパワーで業務を回しているのだから人にもっと投資すべきだ」「ストライキ権を確立していなかったらもっと低かったのかと思うと愕然とする」「がっかりだ」「これで限界突破なら、他の会社はもっと突破している」「思っていた通り低かった、他の会社のことを聞いているからなおさらそう思う」「他の会社も注目して見ているだろうになんでこれだけしか出してくれないのかがっかり」「正直がっかり、同業他社は今回かなり出しているののうちにはこれだけか」「経営陣は恥ずかしくないのかと思う」「先を見通せないような会社になってしまったと思う」「やはり思いのほか上がらないのだなあと感じている」「本社と現場と乖離がある」「先日研修で佐野支店に行ってきたが、採用の応募が減ってきていると言っていた」「回答書の文章には確かに良いことが書いてあるが、それで何で4,000円の数字なのだ」「低額回答しか出さないなら、社員の皆さんへなど出さなくていい」「1万円は超えてほしかった」「あの回答書の文章内容と4,000円という

## 申8号『2025年度賃金引上げ・労働条件改善を通じて全組合員と家族の生活向上を実現するための申し入れ』回答の再考を求める緊急申し入れをおこなう！

数字を見ると、どう考えても会社が退職勧奨していると思えない」「バス事業を営むバス会社であること自体を会社自らやめようとしていると思えないし、人を採って確保して需要がある路線に今以上にもっと本数を走らせることを将来やめて業務委託か全てアライアンス運行にして、単に管理するだけのホールディングス化でもしようとしているのではないかと思えない」「『職業選択の自由』発言は、嫌なら辞めていい、辞めさせようとしていると思えないし、人を大切にしない、大切に思わない悪いところは全く変わっていない」など、回答に唾然とすると同時に信じ難く耳を疑う声、他社を羨む声が止むことなく、枚挙にいとまがありません。

回答書で会社が主張している「経営のトッププライオリティである安全を堅持していくこと」「社員一人ひとりの発意から構造改革がさらに加速していく」ために必要なことは、日々の業務に真面目に取り組んでいる多くの組合員・社員が人財不足のなか、様々な効率化施策や生産性向上などへの協力により安全・安定輸送を確保してきたこと、地域やお客様との連携を大切に職場・ジェイアールバス関東を守り続けていること、そして将来に向け、組合員・社員がこれからもジェイアールバス関東で夢と希望をもって働き続けてもらうことを願い信じた満額回答が必要不可欠なのです。バス事業の根幹は安全であることに相違はありません。今後も全組合員・社員全員が協力し、お客様や地域の皆さまや関係自治体等から必要とされ、選ばれるようなジェイアールバス関東にならなければなりません。地域の方々の生活を支えるジェイアールバス関東としての意識と責任感を強く持ってジェイアールバス関東のシンボルであるツバメのブランド力を高めるためには、労使が正面から真摯に向き合い議論し認識を一致させて労使双方が努力してかなくてはならないのです。

生活水準向上のためにバス業界・ジェイアールバス関東を覆い続けている低賃金から脱却し、豊かさを実感できるベースアップ・物価上昇を上回る賃金引上げの実現が最も重要であり、組合員・社員・家族・子供たちが働く意欲と生きる希望を取り戻し、生き生きと働き続けることができる会社を再びつくるのが、ジェイアールバス関東の企業価値を高めるものであることから、現行賃金改定の再考とさらなる増額を求めます。

したがって、下記のとおり緊急申し入れを行いますので、労使間の取り扱いに関する協約に準じ、団体交渉は信義誠実対等の原則に伴い、丁寧かつ具体的に回答することを強く要請します。

### 記

1. 「現基本給額に対し、4,000円を加えた額を新基本給額とする」とした未曾有の物価上昇に遠く及ばない回答は、組合員と家族、子供たちの日常生活に大きな影響と不安を与え将来を大きく左右することから回答を再考し、現行賃金改定額に11,000円を増額した額の改訂を実施すること。

以上

**この額では物価高に到底対応できない。  
未曾有の物価高に耐えられる賃金を勝ち取ろう！**